2015.7
No.31

佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して　News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号　TEL 0952-31-6511(代)　病院ホームページ http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/

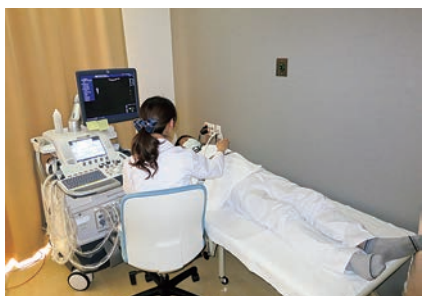
検査部の生理機能検査室が新しくなってスタートしました。
―最新の機器と解析システムで診療のサポートを―

臨床検査医学講座　教授
検査部長　末岡榮三朗

検査部生理機能検査室は、心電図や超音波検査、あるいは呼吸機能検査など、機械を使って患者さんの体の働きを直接検査する部門です。病院再整備に伴い、検査を行う部屋を「生理検査部門」としてまとめました。また、超音波検査室は放射線部の中にありましたが、心臓エコーや腹部エコーなどいろいろな臓器のエコー検査が「生理検査部門」の一か所でできるように集約化しました。

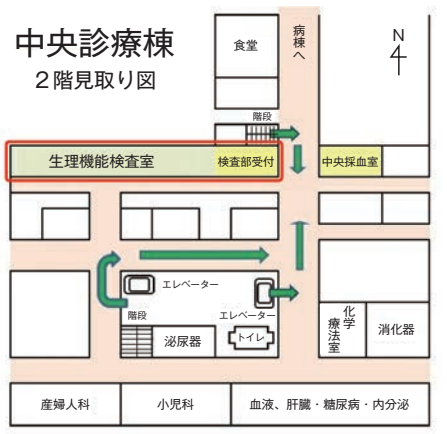
検査機器についても最新機種の導入や検査結果を解析するシステムの導入などで、診断効率の向上や検査結果の報告の迅速化が図れるように工夫しています。しかしながら、生理機能検査の中には検査に時間がかかるものもあるため、検査予定患者さんが多い場合には、少しお待たせする場合もあるかもしれません。また、緊急の検査を必要とする場合には、検査予定時間の変更をお願いすることがあるかもしれませんが、なにとぞご理解をお願いいたします。

生理機能検査のほとんどは、針を刺すような処置（侵襲的検査と言います）を必要とせず、体の内部の状態や働きを検査する、患者さんにやさしい検査法ですので、これからの医療にはますます必要性が高まっていきます。新しい検査技術も次々に開発されていますので、地域医療に貢献できるよう新しい検査技術も取り入れて、正確で迅速かつ安全な検査体制を整えていきます。また、みなさんのご意見をお聞きして、患者さんの立場から利用しやすい生理機能検査室を目指していきたいと思いますので、ご協力いただきますようお願いいたします。



◀超音波検査の様子

◀新受付



◀案内図

動作解析・移動支援開発センターについて

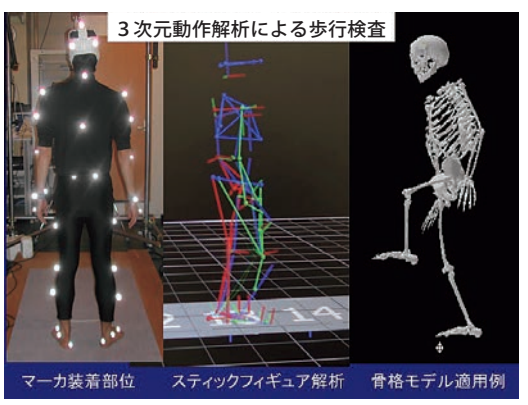
動作解析・移動支援開発センター　センター長
教授　堀川　悦夫

当センターは、歩行・運動等の３次元動作解析と運転適性評価等を主とする移動支援開発を行う施設です。

３次元動作解析は、近赤外光を高効率で反射するマーカーを身体に装着し、複数のカメラ画像から３次元座標変換とCGを用いて無拘束運動計測が可能です。VICON社製カメラ14台とキスラー社製フォースプレート25台で、長さ10ｍ×幅４ｍ×高さ２・４ｍの空間を精度１㎜以下で測定でき、医療用としては海外を含め最大級の性能を有しています。検査対象は、整形外科の人工関節置換術、神経内科の正常圧水頭症疑い、脳神経外科の脳卒中後遺症や二分脊椎、先進総合機能回復センターのロボットリハ等です。歩行検査は診療報酬請求が可能であり、電子カルテから検査オーダーが可能となっています。臨床以外では、３次元動作解析を基に人間の動きを模した生物の動きとして描画する工学的利用も行われています。

移動支援開発では、社会問題化した認知症、脳卒中患者、軽度認知機能低下等の運転可否判断の根拠として運転シミュレーターによる運転適性評価と運転リハビリを行っています。また、自動車学校教員による実車運転評価と常時記録型高機能ドライブレコーダーによる車両挙動解析を併用した先進的評価を行っています。

当センターの業務は他病院からの評価依頼もあるなど潜在的需要は高く、今後も利用増加が見込まれます。



就任挨拶

臓器相関情報講座
教授　長尾由実子

平成27年４月１日付けで佐賀大学医学部臓器相関情報講座の教授に就任いたしました。

講座の名称と専門領域（歯科）が結びつきにくいと思われる方が多いかもしれません。約20年前、口腔がんを培養中に口腔がん患者にC型肝炎ウイルスの感染者が多いことに偶然気づきました。その後、前がん病変「扁平苔癬」がC型肝炎ウイルスと関連していることを発見し、疫学コホート調査を続ける一方で、インターフェロン治療に関する研究も行うようになりました。その中で、学会や論文には最新の医療情報が発表されても、肝心の患者さんや住民の方は医療知識にふれる機会が少ないという現実に直面しました。その実態を把握するための調査や解決策が評価され、肝がん撲滅運動にも従事してきました。

このような背景から、本講座では２つの大きな柱を基に研究を推し進めます。一つ目を「臓器相関」、二つ目を「情報」という言葉に集約し、それを講座の名称としました。口腔を軸とした多面的な臓器相関と医療情報の在り方について研究を行う予定です。

今後ともよろしくお願いいたします。

臓器再生医工学講座
教授　中山　功一

平成27年４月１日付けで、佐賀大学医学部臓器再生医工学講座の教授に就任しました中山功一です。

昨年度までの５年間、本学大学院工学系研究科先端融合工学講座に所属しており、それ以前は九州大学病院整形外科で臨床と研究を行っておりました。

引き続き本庄キャンパスの全学共通実験室を借りて、バイオ３Dプリンタを用いた臓器再生の研究を行っております。

この装置は細胞と目的の３次元データをセットすると、生きた立体的な細胞構造体が出力されるシステムで、細胞以外の人工材料が不要という点が特徴です。このため、人工関節や人工血管など外科領域で問題となっているインプラントによる術後感染が起きにくいことが期待されています。現在、国内外の研究グループと共同で様々な臓器・器官再生を試みており、森田病院長、循環器内科の野出教授と共同で研究開発している血管や、古巣である九州大学病院整形外科と開発している関節軟骨の再生医療などは一定の成果が見え始めております。他の臓器や疾患モデルなど様々な分野への応用の可能性もありますので、興味のある先生方や学生さんは、ぜひ見学にお越しください。

一日も早く臨床へ応用できるよう精進いたしますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

診療科紹介　耳鼻咽喉科

診療科長
倉富勇一郎

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域には呼吸、嚥下、平衡感覚をつかさどる器官や外界から細菌・ウイルスや異物などの侵入を防ぐ防御機能など、生命にとって必要不可欠な機能が存在しています。また、この領域には人間らしく社会的な生活を送るために必要な、言葉を話す、聴くといった機能や、より豊かで文化的な生活を楽しむために大切な美しい声で歌ったり、美味しく味わって食べたり、匂い・香りを楽しむという重要な機能も含まれています。これらを障害する多様な疾患に対して治療を行うのが、われわれ耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の役割です。その他にも頸部や甲状腺、唾液腺疾患にも対応しています。

当科は開院以来、県内における耳鼻咽喉科・頭頸部外科の中心として診療を行ってきました。特に力を入れているのは近年増加傾向にある頭頸部がんに対する治療であり、機能温存を考慮した外科的治療に取り組んでいます。例えば早期の声帯がんでは、短期間の入院で、顕微鏡下レーザー手術により声を保存する低侵襲手術を行っています。進行がんでやむを得ず喉頭を摘出し声を失う場合でも、気管食道シャント形成術により代用音声を獲得できます（図1）。進行した舌がんでは形成外科とのチーム医療により切除した舌を再建し、嚥下や発声機能の回復に努めています。手術以外に、分子標的薬や抗がん剤を併用する放射線治療など、臓器機能を温存する保存的治療も行っています。その治療成績は全国トップクラスであり、県内はもとより筑後地区や長崎県東部からも外来紹介患者さんが来院されます。

頭頸部がんの他では、中耳・鼻副鼻腔・音声機能手術や高齢化社会の進行により増加している嚥下障害に対する外科的治療などで、患者さんのQOL向上に成果を上げています。また、新生児難聴スクリーニングや難聴児の療育にも積極的に取り組んでいます。

現在の診療科スタッフは8名と少数ですが、スタッフ一丸となって佐賀県の医療及び本院の発展に貢献できるよう切磋琢磨しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責：島津倫太郎）

図1

▲気管食道シャント（代用音声の獲得）

新採用看護職員研修について

今年度は、78名の新採用看護職員が入職しました。3日間の採用時研修が終了した後、代表者が力強く誓いの言葉を述べ、新採用者はそれぞれの部署に配属となりました。

配属後は、看護職員院内研修プログラムに沿って、講義や演習を交え、実践に活かせるための研修を行っています。

移乗・移送では、部署の副看護師長が支援者となり、行為だけに留まらず、実践を交えての安全なケアの実際、患者さんやご家族への声掛けや精神的看護の重要性など、現場に即した指導を行いました。

急変対応では、夜勤に入る前の5月に、「患者急変時における初期対応が理解でき行動できる」を目標に講義研修と演習を行いました。

演習では、「23時に、受持ち患者の部屋を訪室した時、80歳代の患者が床に倒れ、不規則な呼吸をしている所を発見した」という場面を設定して、3名の救急看護認定看護師から指導を受けました。

新採用者は、繰り返し演習を行うことで少しずつ自信がついていた様子でした。

7月に入りましたが、新採用者は部署の先輩看護師に支えられながら、笑顔で元気に頑張っています。

▲移乗移送：車椅子

▼急変対応

病院ボランティアの活動について

ボランティア
末次由貴子

ボランティア活動をさせていただいて1年半が過ぎました。再来受付でのお手伝いに、「ありがとうございます。助かりました。」と、患者さんより笑顔で声をかけていただき、恐縮いたしますとともに、こちらこそありがとうございます、どうぞお大事にと心から思えます。

約3年前、私自身、当院で大腸がんの手術を受け「命」をいただきました。その後の経過観察においても再発はなく、日常生活を続けることができています。術後1年程経った頃、いただいた命のご恩返しに当院での医療ボランティアをしたいと思い、ボランティア活動を始めさせていただきました。活動は、月曜日と金曜日です。月曜日は、1階ロビーで、再来受付や自動支払いのお手伝い、診療科の案内、初診者の方への案内、診断書依頼の手順の説明、車椅子の方の介助、忘れ物をされた方への対応、トイレや公衆電話の場所の案内など、多岐にわたります。隔週金曜日は小児科病棟で、師長や保育士の方のご指示のもと、読み聞かせ可能な子どもたちへのベッドサイドやプレイルームでの読み聞かせを行わせていただいています。熱心に聞いてくれる子どもたちの無垢な瞳に、どれだけ力をもらっていることか。読み終えて絵本を閉じる時、聞いてくれてありがとうという感謝の気持ちでいっぱいになります。

ボランティア活動は私にたくさんのことを教えてくれます。人の命の尊さ、真心で接することの大切さ、そして何よりこうして生きてボランティア活動をさせていただけることへの感謝です。活動を続けるに当たり、病院の関係者の方々によくしていただいておりますことにも感謝です。これからも、患者さんはじめ多くの方々のご理解ご支援のもと、当院でのボランティア活動を続けていければと願っています。

▲ボランティア活動の様子

ボランティアの募集

佐賀大学医学部附属病院で
ボランティアをしてみませんか？

当院では、よりよい患者サービスを目指し、ボランティアを募集しています。ボランティアの特別な資格や経験は問いません。思いやりのある多くの皆様の参加を期待しています。

✤ 問い合わせ先は？
・経営管理課企画主担当　電話 0952-34-3107
E-mail：keieikik@mail.admin.saga-u.ac.jp

※　詳細は『ボランティアのしおり』にご案内しています。
1階受付窓口へお気軽にお申し付けください。

看護の日イベントについて

「看護の日」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日の5月12日にちなみ1990年に制定されました。本院では5月12日を含む1週間を看護週間と位置付け、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、看護について認識する機会を持ち、将来の人材確保につながるよう、毎年イベントを開催しています。今年度も病院玄関ロビーで、看護をアピールするフォトコンテスト、ハンドマッサージや乳がんモデルでの自己検診体験、また、看護師のユニホーム着用体験などを行いました。

連携病院紹介

特定医療法人静便堂　白石共立病院

院長
沖田　光紀

【病院の紹介】

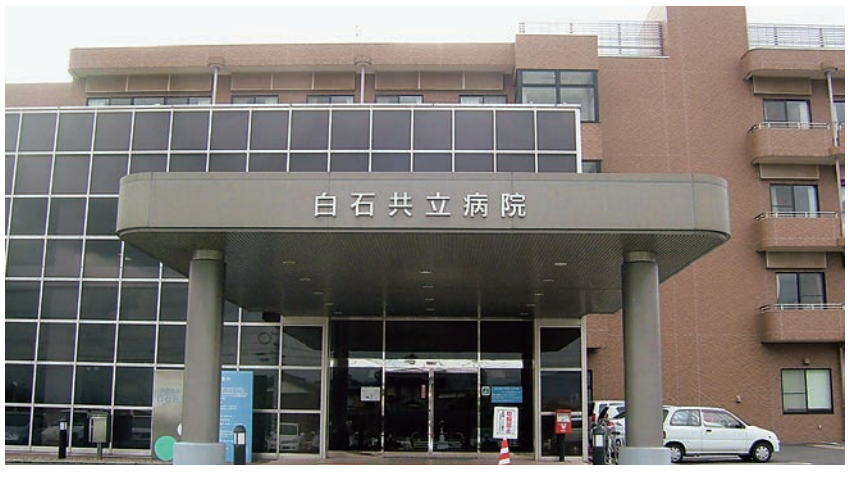
白石共立病院は、昭和55年7月に開院しました。最近では、平成14年には電子カルテを導入し、同年に回復期リハビリテーション病棟を開設しました。さらに、平成20年にDPC対象病院、地域医療連携システム（現 picapica-link）を活用した病院、診療所、介護施設との連携を開始し、平成21年に一般病棟7対1入院基本料の認可を受けております。平成27年6月現在、病床数150床（急性期病棟100床　地域包括ケア病床8床　回復期リハビリテーション病棟42床）の一般急性期病院です。

今後の計画としては、地域の様々なニーズに応えながら、高齢者率30％を超える白石町の地域包括ケアの準備を進めて行く予定です。白石と共に立つ病院として、当院の信条である「人間愛」を念頭に置き、地域医療・福祉の推進に貢献できればと思います。

【本院との連携】

佐賀大学医学部附属病院の先生方とは、平成26年度延べ332名の患者様の紹介、逆紹介の実績があります。先生方との連携を更に深め、また、医療ソーシャルワーカーの方や高次脳障害、難病、がんパス、肝炎等のコーディネーターの方等、コ・メディカルの方との連携も深めていければと思います。

今後ともご支援、ご指導いただきますようによろしくお願いします。



文化コーナー作品（俳句・川柳）募集のお知らせ

本院広報委員会では、俳句・川柳を募集しております。優秀作品は3月発行の「病院ニュース」に掲載する予定ですので、皆様奮ってご応募ください。

詳細は外来ロビーの掲示板及び本院ホームページをご覧ください。

【応募締切】　平成28年2月12日（金）

【応募・お問い合わせはこちらまで】
佐賀大学医学部総務課
（研究・評価主担当）
TEL　0952（34）3354
メールアドレス
khyouka@mail.admin.saga-u.ac.jp

▲院内学級の児童生徒による作品